

NPO法人アスイク

第2期中間事業報告 (2012.04~2012.09)



今年度の活動の全体像

第2期となる平成24年度は、4つの事業を推進した。

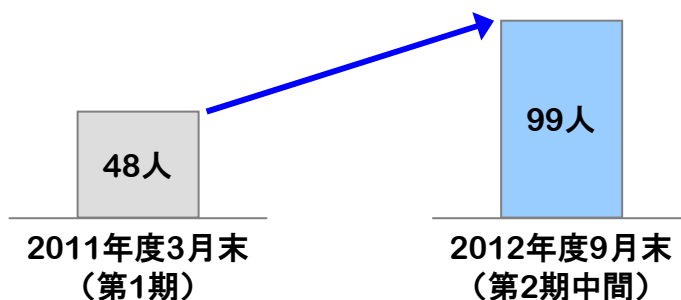
事業	新旧	概要
<p>仮設住宅での 学習サポート</p>	<p>継続・発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台市内5ヶ所の仮設住宅団地にて、自治会等と連携しながら、幼稚園～高校生までの学習サポートを実施する。※各拠点週1回 ● 拠点リーダー制を導入し、各拠点がそれぞれの状況に合わせて柔軟で自立的に、且つ相互連携をしながら活動できる体制をつくる。 ● 外部組織との連携によるサポーター研修は継続実施。
<p>直営拠点での 学習サポート</p>	<p>継続・発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度に立ち上げた学習支援センター「19 Tsutsujigaoka」（仙台市宮城野区）を継続的に運営し、みなし仮設等で生活する子どもたちの学習サポートを実施する。※毎週火曜～土曜 ● 5月より、泉区の商業施設内にて第2の直営拠点を開設する。 ● また、外部と連携した子ども向けの特別講座を定期的で開催する。
<p>リサーチ・ソーシャル プロモーション</p>	<p>継続・新規</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉関係者、学校関係者等と連携し、経済的困窮家庭へアプローチするネットワークを構築する。 ● 講演・執筆等の情報発信活動は引き続き積極的に受けていく。
<p>E-learningを活用した 教育事業</p>	<p>新規</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● E-learningプロバイダーと提携し、各地にインストラクターを育成して、効果的で、事業性、波及性のある教育支援事業を実施する。

半年前と比べ、活動の規模や受益者数が大きく増加した。

対象へのリーチ

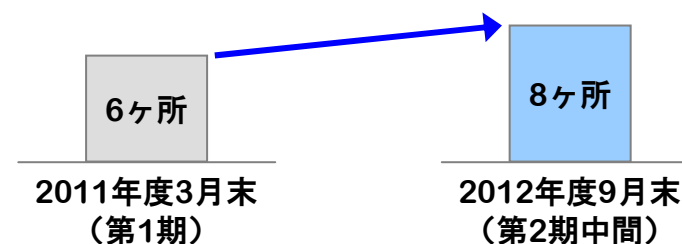
受益者（子どもの数）

- ※ 特別講座など、単発イベントのみの参加者は含まない。
- ※ 第1期は、避難所での参加者人数を除く。



活動拠点数

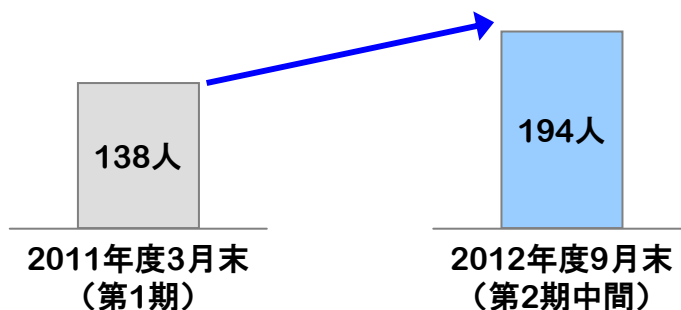
- ※ 仮設住宅、直営施設合算。
- ※ 第1期は、避難所での活動拠点を除く。



社会的リソースの巻き込み

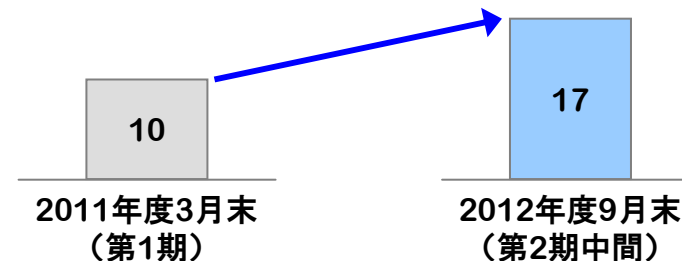
登録ボランティア数

- ※ 実稼動していないメンバー含む。
- ※ 連携大学からの派遣人数を含む。



連携組織数

- ※ 民間企業、行政、NPO等。



シンボリックな成果

今年度の活動を通して、以下のような定性的な成果を得られた。

ケース①：学習サポートの場を通じた、母子の孤立防止

仙台市内でも立ち上がりが遅かった、A仮設住宅。

この仮設は、県南、福島など、仙台市外から入居してきた家庭も多く、住民同士のつながりも薄かった。他の大規模仮設に外部からの支援が集中し、アプローチしてくるのは単発のボランティア活動ばかりという状況の中、住民を支援するために配属された臨時職員も孤軍奮闘しながら疲弊していくという状態であった。

「単発のボランティアは受け入れない。一度関わったからには、みんなが退去するまで関わらせていただく」。このような当団体の方針に共鳴していただき、アスイクによる学習サポートが始まった。

臨時職員や保護者会も非常に協力的で、学習サポートは順調に軌道に乗っていった。

しかし、心配だったのは、福島原発地域から非難されてきた家庭だ。

地元で働く父親を残し、母親と幼い子どもだけで、慣れない土地にやってきた。

その母親は、私たちはおろか、他の住民の前にも滅多に顔を出さない。

一度だけ顔を合わせたとき、目に力はなく、やせ細り、土気色の顔をされていた。

当然子どももその影響を受け、言葉遣いや行動が粗暴で、落ち着いて座っていることができない状態だった。

家でも、ほったらかしに近い状態だったようだ。

学習サポーターたちは、慎重に、そして粘り強く、この子どもと関係性をつくり続けた。

最初は荒れて、周りの子どもにも少しだけ迷惑をかけていた子どもも、明らかに落ち着きを取り戻しはじめた。

私たちの学習サポートに来るのが楽しそうな様子を見せだした。

ある日、この仮設でお祭りが開催された。

学習サポーターたちも招待され、祭りの運営を手伝った。

子どもは、慣れ親しんだサポーターが来るのが分かっていて、祭りに参加したいと母親にねだった。

母親は、娘に連れられるようにして、みんなの前に顔を出した。

この母親は、まだ完全に回復していないかもしれない。

そんなに軽い荷物を背負っているわけではないだろう。

しかし、この子どもが学習サポートに来ないときには、他の母親が家まで迎えに行ってみたり、少しずつつながりが生まれ始めている。



ケース②：コミュニケーションがとれるようになった子どもと、母親の間接的なサポート

B仮設住宅で生活する母子家庭。

震災が起きてから間もない頃は、子どもの体調も悪かった。

ご飯を食べることもできず、栄養失調におちいり、救急車で運ばれたこともあった。

学校も休みがちになってしまい、勉強どころではなくなった。

B仮設に移ってしばらくしてから、アスイクの学習サポートに参加。

小さいときから人見知りで、幼稚園の頃は「声をきいたことがない」と周りからいわれていたほど。

学習サポートも、子どもから積極的に参加したというわけではなかったが、

小学校の同級生もたくさん来ているので、それにつられて参加した。

毎週参加し続けるうちに、少しずつサポーターとのコミュニケーションが取れるようになってきた。

次第に、自分の担当じゃないサポーターとも話したり、相手の名前を覚えることが楽しみになった。

今では、家の中でも明るく、学校にも楽しく通っている。

今後、間借りをしている学校がどうなるか、誰も分からない不安はある。

いろんな噂があって、解散するという話も聞こえる。

どこに住むことになるのか、学校は変わってしまうのか。

母親が抱える不安は消えないが、子どもが以前よりも明るくなってきている姿は、

大きな支えになっている。



活動スケジュール

事業名	テーマ	タスク	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			第1期			第2期			第3期			第4期			
仮設住宅での学習サポート	各拠点の自立的な運営体制づくり	拠点リーダーの確保													
		リーダー会議の開催	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
		研修会の実施(学習支援センター共通)	▲			▲				▲			▲		
学習支援センター	単年度ブレークイーブン	利用会員の獲得													
		パンフレット製作													
		入居会員の獲得													
		賛助会員の獲得													
	保護者サポートの拡充	保護者会(個別)の開催				▲			▲			▲			▲
			安定的なサポーター獲得の仕組みづくり												
	特別講座の立ち上げ	大学との連携													
		地元高校との連携													
		民間企業との連携													
	リサーチ・ソーシャルプロモーション	困窮度の高い子どもへのアプローチ方法の確立	研究会の立ち上げ			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
HPリニューアル															
新規事業開発	次年度以降の事業の柱づくり	取材対応・講演活動													
		外部との連携による事業開発													
経営管理	事務局機能の強化	社員総会			▲										
		進捗ミーティング(隔週)													
		ファンドレイジング													
	継続的な情報発信	ブログの曜日担当制													
		ニュースレターの発行		▲		▲		▲		▲		▲		▲	
		facebook・Twitterの活用強化													

仮設住宅での学習サポート

仮設住宅での
学習サポート

直営拠点での
学習サポート

リサーチ・ソーシャル
プロモーション

E-learningを活用した
遠隔教育事業

活動概要

仙台市内6ヶ所の仮設住宅団地で継続的な学習サポートを実施した。(内2ヶ所は今年度からの新規拠点)

活動拠点



各拠点の概要 (2012年9月末時点)

JR南小泉アパート

- 活動日：毎週月曜18:30～20:00
- 子どもの数：15人、活動回数：22回

仙台港背後地6号公園

- 活動日：毎週火曜19:00～20:00
- 子どもの数：4人、活動回数：25回

鶴巻1丁目東公園

- 活動日：毎週水曜19:00～20:00
- 子どもの数：12人、活動回数：27回

扇町1丁目公園 (新規)

- 活動日：毎週水曜19:00～20:00
- 子どもの数：2人、活動回数：8回

荒井小学校用地

- 活動日：毎週木曜19:00～20:00
- 子どもの数：12人、活動回数：25回

卸町5丁目公園 (新規)

- 活動日：毎週金曜19:00～20:00
- 子どもの数：11人、活動回数：25回

参加者 (子ども) 計：56人、活動回数計：132回



【JR南小泉アパート】

空いている部屋を丸ごと貸していただき、活動。未就学児・小学生・中学生の部屋をわけている。サポーターのチームワークは各拠点でも随一。



【扇町1丁目公園】

今年の8月から活動を開始した新規拠点。福島の原発地域からの避難者など、様々な地域からの入居者がおり、コミュニティづくりの一環としても貢献している。



【仙台港背後地6号公園】

参加している子どもの人数は少ないが、その分アットホームな雰囲気。小学生は、お互いに競い合うような工夫をするなど、サポーターが工夫を凝らして活動をしている。



【荒井小学校用地】

荒浜地区の住民が大多数を占める仮設住宅。学習サポートに通ってくる子どもたちもほぼ全員が小学校時代からの同級生。全員が中学生のため、受験も意識したサポートを実施している。



【鶴巻1丁目東公園】

今期に入って参加する子どもが急増した拠点。サポーターチームも、大学生から社会人まで幅広い。中には、大学教授を退任したサポーターも。



【卸町5丁目公園】

今年4月から新規で活動を開始した拠点。様々な地域から転入してきた住民が多いため、子どものサポートを通じたコミュニティづくりを意識している。

リーダー会議の開催

今年度からリーダー制を導入し、各拠点ごとにリーダーを配置。自立的な活動、各拠点の情報・ノウハウ共有を図った。

実施概要

第1回	- 日時： 2012年4月21日（土） 14:00～16:00 - 参加者： リーダー4名、事務局2名 - 内容： 進捗共有、課題の協議
第2回	- 日時： 2012年5月27日（日） 14:00～16:00 - 参加者： リーダー5名、事務局2名 - 内容： 同上
第3回	- 日時： 2012年6月24日（日） 17:00～19:00 - 参加者： リーダー5名、事務局4名 - 内容： 同上
第4回	- 日時： 2011年8月25日（土） 13:00～15:00 - 参加者： リーダー4名、事務局3名 - 内容： 同上
第5回	- 日時： 2012年9月22日（土） 13:00～16:00 - 参加者： リーダー5名、事務局6名 - 内容： 同上

実施風景



学習サポーターの力量形成のために、外部との連携による定期的な研修会を開催した。

概要

実施風景

学習指導力向上研修①

- 実施協力： 学校法人河合塾
- 日時： 2012年5月5日（土） 13:00～17:00
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 学習サポーター17名、河合塾講師5名
- 内容： 指導者としてのスタンス、指導のポイント
模擬授業（ロールプレイ）
学習指導カリキュラムの作成 ※リーダー対象



概要

実施風景

学習指導力向上研修②

- 実施協力： 学校法人河合塾
- 日時： 2012年5月6日（日） 14:00～17:00
- 場所： 山形大学
- 参加者： 山形大学生30名、河合塾講師5名
- 内容： 指導者としてのスタンス、指導のポイント
模擬授業（講師による実演）



概要

発達障がい研修
コーチング研修

- 実施協力： 有限会社アライブ・ワン / (一般社) ぶれーん・ゆにーくす
- 日時： 2012年7月8日 (日) 13:00~17:00
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 学習サポーター20名
- 内容： 第一部：コーチング研修
第二部：発達障がい研修

実施風景



概要

学習指導力研修
コーチング研修

- 実施協力： 有限会社アライブ・ワン / NPO法人ミヤギユースセンター
- 日時： 2012年9月30日 (日) 13:00~17:10
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 学習サポーター31名
- 内容： 第一部：コーチング研修
第二部：学習遅れに直面している子どもの指導力研修

実施風景



直営拠点での学習サポート

仮設住宅での
学習サポート

直営拠点での
学習サポート

リサーチ・ソーシャル
プロモーション

E-learningを活用した
遠隔教育事業

活動概要

前年度に引き続き、直営施設「19 Tsutsujigaoka」にて、みなし仮設や直接的な被災に関わらず経済的に余裕のない家庭の受け皿を運営した。

活動拠点



活動の概要（2012年9月末時点）

- 内容：大学生・社会人サポーターによる学習サポート
 - 場所：仙台市宮城野区榴岡5-3-21コーポ小松101
 - 対象：小学4年生～高校生
- ※ 就学援助受給世帯、非課税世帯、生活保護受給世帯、被災家庭等
- 活動日：毎週火曜～金曜 19:00～20:30
 - 子どもの数：14人、活動回数：100回



参加者（子ども）計：14人、活動回数計：100回

今年度は、外部の組織や専門家との協働による特別講座を積極的に開催。教科学習以外の機会づくりを行なった。

実施風景

子どもアート教室

- 実施協力：日本臨床美術協会 阿部良子氏
- 日時：2011年5月12日 14:00～16:00
- 場所：19 Tsutsujigaoka
- 参加者：子ども、保護者、学習サポーター8名
- 内容：クリニカルアートの技術を活用したアート教室



実施風景

概要

異文化交流会

- 実施協力：日系アメリカ人高校生
- 日時：2012年6月14日 20:00～20:45、6月15日 19:00～19:45
- 場所：19 Tsutsujigaoka、卸町5丁目公園
- 参加者：子ども7名、4名（計11名）
- 内容：アメリカの生活の紹介
子どもとの対話



概要

実施風景

理科
実験
教室

- 実施協力： 松延康氏
- 日時： 2012年8月3日 10:00～15:00
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども63名、保護者5名
- 内容： 「松延康先生のドキドキワクワク理科実験
～科学の世界を体験しよう～」
第1部 スノードームをつくろう
第2部 科学捜査班



概要

実施風景

金銭
教育

- 実施協力： SMBCコンシューマーファイナンス株式会社
- 日時： 2012年8月25日 15:30～17:45
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども6名、保護者3名
- 内容： 「親子で学べるお金の役割・マネートラブル」
第1部 カードゲームで学ぶお金の役割
第2部 インターネットに潜むマネートラブル

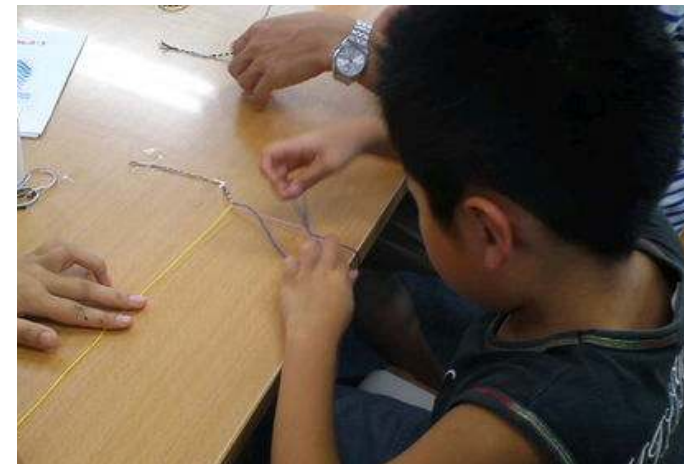


概要

実施風景

ミサンガ教室

- 実施協力： 東北大学非営利組織論ゼミ（東北大生5名）
- 日時： 2012年9月15日（土） 14:00～16:00
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども7名
- 内容： ミサンガづくりワークショップ



概要

実施風景

河合塾特別講義

- 実施協力： 学校法人河合塾
- 日時： 2012年9月16日（日） 14:00～17:30
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども7名、保護者1名 ※受験生対象
- 内容： 英語と数学の特別授業
河合塾の講師による個別面談会
学習サポーターとの振り返り



概要

実施風景

春季
寺子屋くらぶ

- 実施協力： NPO法人Teach for Japan
- 日時： 2012年5月26日～7月28日（毎週土曜）
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども8名
- 内容： 選抜・研修を受けた学生講師による学習支援

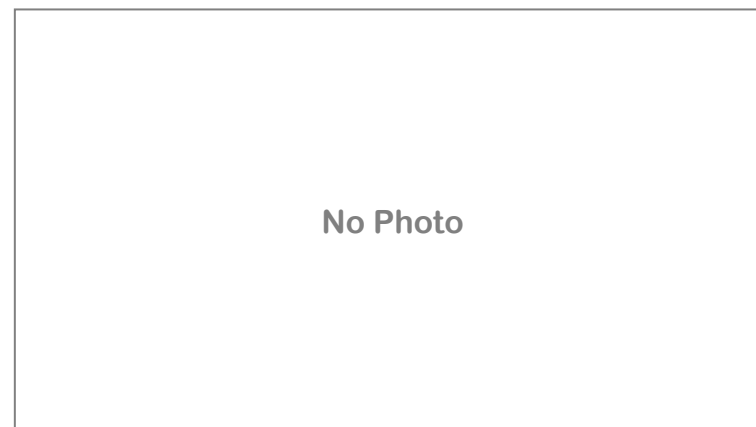


概要

実施風景

秋季
寺子屋くらぶ

- 実施協力： NPO法人Teach for Japan
- 日時： 秋季/ 2012年10月13日～12月8日（毎週土曜）
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： 子ども13名
- 内容： 選抜・研修を受けた学生講師による学習支援



リサーチ・ソーシャルプロモーション

仮設住宅での
学習サポート

直営拠点での
学習サポート

リサーチ・ソーシャル
プロモーション

E-learningを活用した
遠隔教育事業

講演・講師

- ◆ 赤い羽根共同募金 「第2回ボラサポサロン」での登壇
- ◆ 東北大学 西出ゼミでの講師
- ◆ あずさ監査法人 CSR会議
- ◆ NHK教育テレビ 東北発☆未来塾でのゲスト講師
- ◆ 東北大学アジア人財（ASIST）・Sendai Schemeコンソーシアム 共催 地域連携インターンシップ成果発表会 講演
- ◆ World in Asia 1周年記念フォーラム パネリスト
- ◆ 大阪府人権教育研究協議会 第54回夏季研 特別講演
- ◆ ITコーディネーター宮城会 講師

執筆

- ◆ 教育出版 教育情報誌「educoco」2012年春号への寄稿



World in Asia 1周年記念フォーラム



大阪府人権教育研究協議会 特別講演



NHK教育テレビ 東北発☆未来塾

E-learningを活用した教育事業

仮設住宅での
学習サポート

直営拠点での
学習サポート

リサーチ・ソーシャル
プロモーション

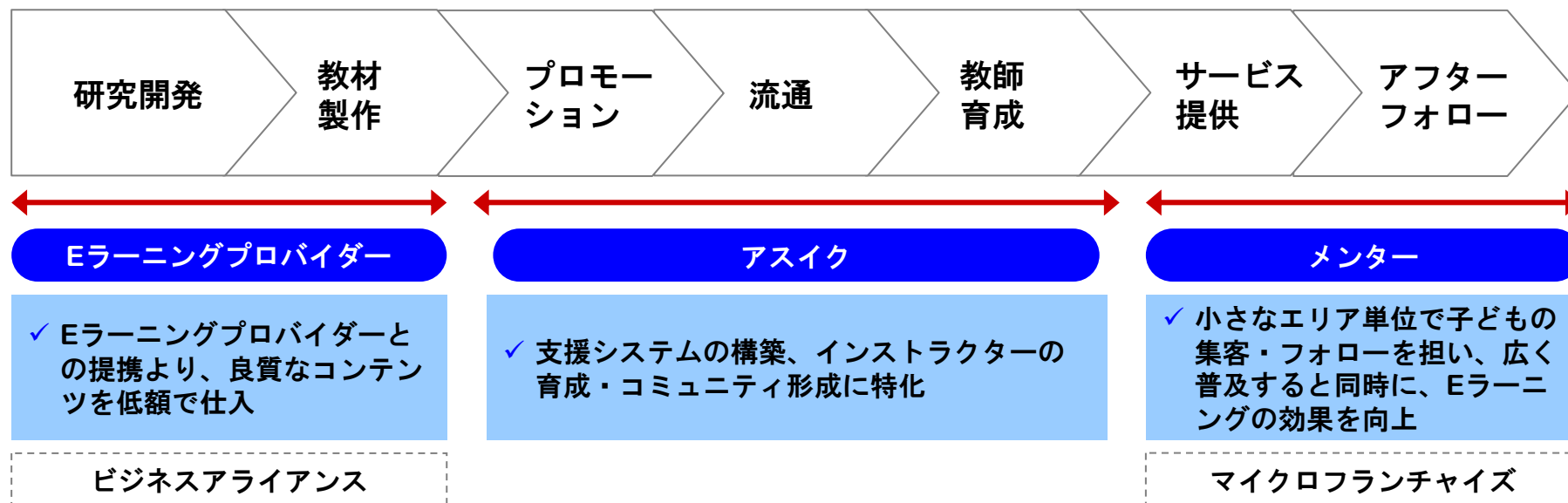
E-learningを活用した
遠隔教育事業

低所得層に対して、様々な主体を巻き込むことによってサプライチェーンをつなぎ、良質の教育サービスを低料金で提供する。

低料金×規模の追求によって、事業として成立させる。

単にEラーニングを提供するだけでなく、社会的な孤立に陥りやすい家庭に対して、比較的不安の多い教育面からアプローチすることによって、自分に期待してくれる、認めてくれる人とのつながりを生み出していく。

- 未消費マーケットに対するサプライチェーンの構築 (ビジネスアライアンス+マイクロフランチャイズ)
- 規模の拡大による事業化 (低料金×規模)
- 学習支援を切り口とした関係性づくり (学カ→ソーシャルキャピタル)

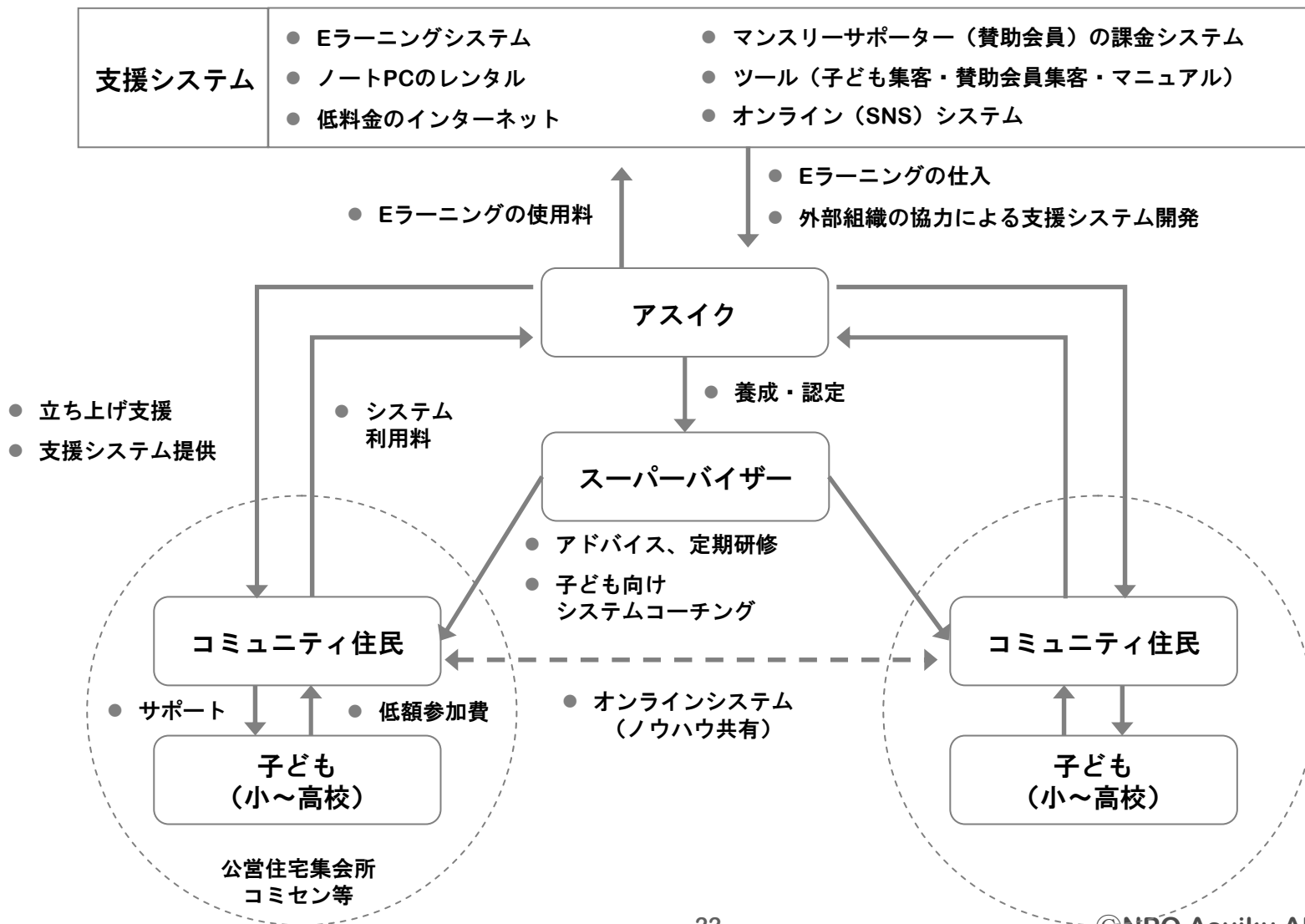


事業モデル

外部の組織と連携した支援システムを構築し、思いはあるが、ノウハウやリソースを持たないコミュニティ住民をエンパワメントすることで、公営住宅の集会所やコミュニティセンターなどを地域の学び場に変えていく。

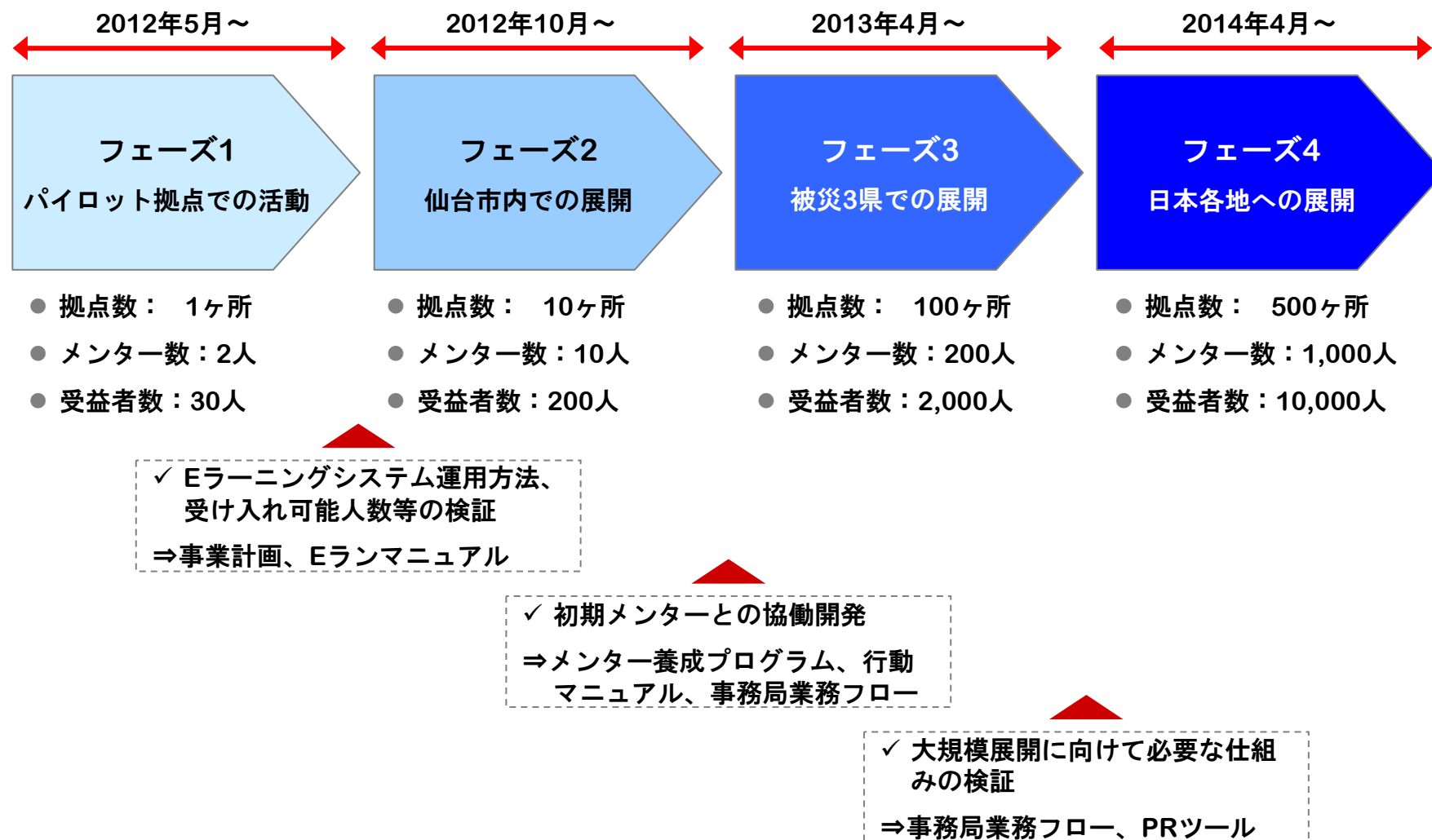
各地にスーパーバイザーを育成し、コミュニティ住民をバックアップしたり、難易度の高いシステムコーチング等を実施する。

インストラクターを含むコミュニティ住民同士が、創発的に学びあうオンラインシステムを導入することで、広がるほどクオリティが高まることを目指す。

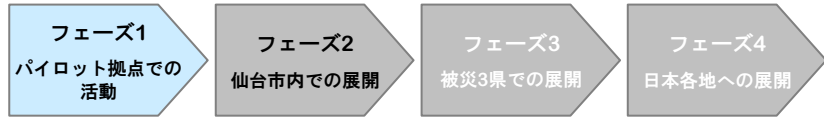


活動のステップ

今年度はパイロット拠点で活動をはじめ、仙台市内で展開。初期メンターとともにツール類を開発していく。
その結果をベースに、来年度から他地域へ展開する。



パイロット拠点



2012年5月21日から、泉区副区長との協働により、仙台市泉区のイトーヨーカドー内でパイロット拠点を立ち上げた。開始から2週間程度で20名以上から問い合わせ・申し込みがあり、順調な立ち上がりをみせた。

活動拠点



活動の概要

- 内容：Eラーニングを活用した学習サポート
- 場所：イトーヨーカドー仙台泉店内会議室
- 対象：被災家庭、生活保護、就学援助受給家庭、非課税家庭、一人親家庭、その他経済的に困難な家庭
- 活動日：毎週月曜・水曜 18:00～20:30
- 子どもの数：29人、活動回数：34回

参加者（子ども）計：29人、活動回数計：34回

活動の成果

- 開始からわずか2週間で20名以上の問い合わせ・申し込みがあり、ニーズの高さを確認できた。（見学からの成約率100%）
- 地元中学校、社会福祉協議会、生活保護担当部署との連携体制を構築し、効果的・持続的な集客体制を築いた。
- Eラーニング（アニメーション教材）だから参加したという保護者、子どもも少なくなく、対象者層とEラーニングの相性の良さが確認された。
- Eラーニングの効果的な活用には、目標設定が重要であることが確認できた。

活動風景



- ✓ 泉区副区長との連携により、イトーヨーカドーの空き会議室を借りている。
- ✓ ノートパソコンは、外資系金融機関からの寄付によって調達。
- ✓ 2012年9月末現在、29名の子どもが通っている。

面談の様子



- ✓ 現在は直営施設のため、学習サポーター（大学生）や事務局スタッフが中心となって、子どもとの面談を実施。
- ✓ 目標設定や家庭内学習の方法、雑談からの関係構築を行っている。

その他の活動

今後の中期的な動きの土台をつくるために、第三者の協力も仰ぎ、組織としてのビジョンを再構築した。

概要

実施風景

ビジョンセッション

- 実施協力： World in Asia（山本 未生）
- 日時： 2012年8月23日 13:00～17:30
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： NPO法人アスイク事務局、学習サポーター（計9人）
- 内容： 距離感・関係性を表現する
コンスティテュエーション・マップをつくる
夢を描く・共有する



概要

実施風景

ダイアログ

- 日時： 2012年9月10日 14:00～16:00
- 場所： 19 Tsutsujigaoka
- 参加者： NPO法人アスイク理事、事務局（8名）
- 内容： 各人が考えている価値の共有
テーマごとに分かれた意見共有



イベント・受賞

地域とのつながりを作るために、子どもと一緒にイベントにも参加。
また、今年度はキッズデザイン賞を2部門で同時受賞した。

こいのぼり祭り



- ✓ 4月26日、町内会のイベントであるこいのぼり祭りに事務局3名と学習サポーター3名、子ども3名が参加。
- ✓ 会場設営から運営までを手伝い、地域住民との交流をはかった。

キッズデザイン賞受賞



- ✓ 第6回キッズデザイン賞でリテラシー部門、復興支援デザイン部門の2部門同時受賞。
- ✓ 復興支援デザイン部門では、震災直後の避難所からはじまり、仮設住宅や直営の施設で展開されている学習支援活動が受賞。
- ✓ リテラシー部門では、昨年12月に明石書店より刊行した「3・11被災地子ども白書」が受賞。

団体基礎情報等

メディアでの紹介

- Radio3
- NHK Eテレ
- NHK 仙台放送局
- Quest-France (ウエストフランス紙)
- NHK Eテレ 東北発☆未来塾
- 月刊福祉 2012年8月号
- 震災復興 地域かわら版 みらいん
- Radio3
- greenz.jp グリーنز
- 全国社会福祉協議会
- 東北1000プロジェクト

- 「希望の杜・仙台への想い」
- 「特盛り！テストの花道」
- 「ゴジだっちゃ」 気になるニュース
- 「津波の傷跡は癒されているには程遠い」
- 「起業のチカラ 第4回」
- 「人と人をつなぐ実践」
- 「子ども支援特集」
- 「がんばろう仙台・宮城」
- 「マイプロSHOWCASE」
- 「ボランティア情報」5月号 表紙
- 「注目プロジェクト」

計11回



協力組織

第1期以上にさまざまな組織との連携・協力体制を築いた。

学習サポーターの確保



学習サポーターの育成



特定非営利活動法人(NPO法人)



特別講座（子ども・保護者向け）の開催

すべての子どもが、成長できる「教室」



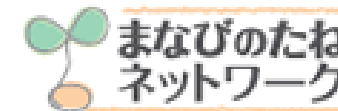
教材の調達



資金・物的支援（教材以外）



事業開発・組織運営



正会員

- 芳賀直 仙台の子どもと教育をともに考える市民の会 事務局長
- 新沼史智 株式会社アイエスエフネット 東北支社長
- 原亮 みやぎモバイルビジネス研究会 会長
- 井上きみどり 漫画家
- 後藤美香 有限会社アライブ・ワン 代表取締役
- 伊勢みゆき NPO法人まなびのたねネットワーク 代表理事
- 田中聡子 NPO法人まなびのたねネットワーク 副代表兼事務局長
- 河合豪雄
- 井上尚人 東北大学経済学部3年
- 本間優子
- 大橋雄介 NPO法人アスイク 代表理事
- 並木謙之介 NPO法人アスイク

助成

- 宮城県「新しい公共の場作りのためのモデル事業」
- 石橋財団「東日本大震災被災地復興支援寄付助成」
- キリン福祉財団「キリン・子育て公募助成」
- 日本国際交流センター「JCIEメットライフアリオ子ども支援プログラム」
- 東日本復興支援財団「子どもサポート基金（第2期）」
- 三菱商事復興支援財団「復興支援助成金」
- 内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業「みちのく起業 第1期」

賛助会員（敬称略）

- 匿名希望
- 土屋 あまね
- 船津 隆子
- 牛嶋 孝輔
- 桑原 正義
- 養田 廣
- 二葉 和江
- 二葉 栄
- 金子 かほる
- 沼野 彩香
- 林 由美子
- 沼沢 みゆき
- 吉原 隆行

寄付者（敬称略）

- 池田 千春
- 三上 純子
- ニシイ トシマサ
- ハートエデュケーション
- 松浦建設株式会社
- 沼沢 みゆき
- 東京リズムグループ協会 伊藤 ゆうみ
- ヒグチ ヨウコ
- 新保 孝子
- 佐藤 政史
- 井口 悦美
- 正 洋樹
- カフェモンサンルー
- 畔上 尚也
- スタジオミュウ
- 田村 紀子
- Nutrition & Santé
- 経済ソサエティ（Give2Asia） ※使途指定寄付
- 有限責任あずさ監査法人

団体概要

設立

2011年9月28日（任意団体設立：2011年3月28日）

ミッション

NPO法人アスイクは、
経済的に困難な子どもたちの問題に当事者意識をもつ市民や組織を増やし、それらの力を結びつけることによって、被災地から「生活困窮の連鎖」を打ち壊すモデルを生み出し、東日本大震災からの真の復興を実現します。

事業内容

子どもに対する教育支援活動
ソーシャルプロモーション（調査研究）活動

所在地

仙台市宮城野区榴岡5-3-21 コーポ小松101

連絡先

Tel：022-781-5576 E-mail：info@asuiku.org

アドバイザー

加藤 徹生

1980年、大阪生まれ。経営コンサルタント。日本初のソーシャルベンチャーキャピタル、一般社団法人World in Asia (WiA) マネージングディレクター。
著書に「辺境から世界を変える」（ダイヤモンド社）。

山本 未生

1979年、東京生まれ。World in Asia理事。東京大学卒、MIT Sloan School of Management MBA候補生。McKinsey & Companyにてサマーインターン修了。
2005年よりSVP東京のパートナーとして7年間、革新的な社会起業家を「汗と時間とお金の投資」で支援。

福島 真司

山形大学エンロールマネジメント部教授。基盤教育において実社会での体験授業を導入し、多くの学生に支持され、質の高い授業を提供してきた優秀な教員に贈られる「ベストティーチャー賞」を受賞。

役員



代表理事：大橋 雄介

1980年生まれ。福島市出身。
筑波大学卒業後、ネットベンチャーのコピーライター、地域活性化コンサルティング会社の創業期メンバーを経て、株式会社リクルートマネジメントソリューションズのコンサルタントとして、大手企業に対する組織開発・人材開発のコンサルティングに従事。
2010年3月に独立、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターに関わり、ソーシャルビジネスの起業支援やネットワーク形成プロジェクトを担う。震災発生直後にアスイクを設立。著書に、「3・11被災地子ども白書」（明石書店）等。
NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター評議員



理事：井上 きみどり

ノンフィクション漫画家・エッセイスト。
自身の子育て経験を題材にした「子どもなんか大キライ！」は累計100万部を越えるベストセラーになる。
「オンナの病気をお話しましょ。」「私たちの震災物語 ハート再生ワーカーズ」など、女性や子育てをテーマとした著作多数。

理事：伊勢 みゆき（NPO法人まなびのたねネットワーク代表理事）

理事：本間 優子

監事：布田 剛



和田 寿子
(事務局)



高畑 淳一郎
(東北学院大・
長期インターン)



松橋 穂波
(宮城教育大・
長期インターン)



佐藤 捺美
(東北学院大・
長期インターン)



三浦 克之
(山形大・
短期インターン)



並木 謙之介
(事務局)



稲月 茜
(東北学院大・
長期インターン)



中脇 まりや
(北海道教育大・
短期インターン)



伊藤 大貴
(山形大・
短期インターン)